

ナビゲーター

私は、アフリカのガーナで企業庁に勤務し、企業支援を担当しているサミュエル・ドゥクです。グレーターアクラ地域局でアシスタント・ビジネス支援者として職務にあたっています。わが国の経済的な背景、直面する問題と、私が参加したJICAの研修「企業経営者の経営能力向上」から、次のように考えます。

中小・零細企業はガーナ経済の基盤です。世界銀行によると、中小・零細企業はガーナの産業活動の70%以上を

日本への期待 世界各地から

49

日本の活動をお手本に

ガーナの企業支援機関から(上)

貢献しており、国内総生産の約70%を占めています。経済は基本的に輸入主導です。ガーナの中小企業は、依然として伝統的なアプローチを事業運営に適用しています。これらの大半は非効率的で、時代遅れで、時間がかかり、無駄なものがあり、場合によっては労働者に有害となります。

ガーナ企業庁は、これらの企業が活用可能なベストプラクティスを公式化し、適用できるように支援するために設立

されました。私が参加したこのコースが重要なのは、国内の中小企業に知識を伝えるための十分な準備をするため、政府機関のスタッフに枠組みと理解を提供してくれるからです。

私が参加したリーム中産連による「企業経営者の経営能力向上」コースでは、ビジネス支援者と企業管理者の双方にとって有益な幅広い話題が取り上げられました。日本の経営管理、生産性向上、企業の社会的責任(CSR)に

対する考え方、バリュー・エンジニアリング(VE)や技術改善の方法論について学びました。ここでは、コースから得た重要なポイントと、それをビジネス支援者としての仕事にどのように適用するかをお伝えします。

私の得た最も重要な点の一つは、企業経営における継続的な改善の重要性でした。日本企業は、今日の世界市場で競争力を維持するために不可欠な品質、イノベーション、継続的改善に重点を置いている

ことで知られています。ビジネス支援者として、支援先が企業経営のためのこれらのベストプラクティスを活用し、実行できるよう支援することが私の責任であると信じています。

5Sの方法論、総合品質管理(TQM)、およびTPSなどの生産管理方式は、組織が効率を向上させ、ムダを排除し、プロセスを最適化するのに役立つ、企業経営に対する日本のアプローチのほんの一例です。

(以下はリーム中産連の追記)

後半は、ドゥク氏が得たもう一つの重要な点から始まる後半をお届けする。6週間にわたる遠隔研修をとおして、ドゥク氏が改善計画を立案し、実行する力を向上させたことは、その後の確認も交えてリーム中産連の講師一同が認めるところである。

ガーナからはガーナ企業庁の複数の部門から合わせて4人が参加していた。本年も同じコースが実施されるが、同国からは、同庁より1人が参加する予定である。ゆくゆくは、参加年度を越え、日本から学んだ者たちが共に助け合い、アフリカの地で現地企業のための企業支援を実現することを期待する。

【サミュエル・ドゥク、リーム中産連】

(月曜日に掲載)